

第1回自然体験活動指導者養成研修会

滋賀県大津合同庁舎（7B会議室）で、第1回研修会を実施しました。受講申込者は39名で、開講しました。年齢層も19歳～66歳までと幅広く、大学生・NPO・児童館の指導員、児童クラブの指導者、宿泊施設関係者など幅広い分野の方で構成されています。小学校での長期自然体験活動に指導者として関わろうとする強い意志を持って、終始熱心に受講されました。

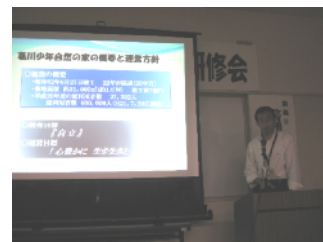
日時：平成21年9月26日（土）

9時40分～16時00分

場所：大津合同庁舎7B会議室



最初に滋賀県地域教育力体験活動推進協議会の中野友博会長から、子どもを取り巻く状況と本研修会の趣旨説明があり、5回にわたる研修をぜひ最後まで受講いただきたいと、激励のあいさつがありました。その後、日程説明と本研修の概要説明を行い、いよいよ研修会が始まりました。



講義

講義

「学校教育における体験活動の意義」

彦根市立城南小学校校長 菖蒲池 司 氏

- ・子どもたちは、今
子どもたちを取り巻く社会環境の変化
→感性が育ちにくい状況
今はぐくみたい豊かな人間性や社会性
- ・心を耕す働きかけ
体験からの気づき
具体的な体験
- ・青少年の体験不足の現状
- ・教育の目的及び理念
- ・「生きる力」の育成と自然体験活動
中教審「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」
- ・「生きる力」と体験活動
体験活動と学びの過程
体験活動の意義
子どもたちの成長の過程と体験活動
小学校 低学年
体験活動から「気づき」の生まれる低学年の時期
小学校 中高学年
社会に広がっていく中・高学年の時期
などの観点を講義されたのち、最後に会津藩校日新館「遊びの仕」を紹介され、今後の教育における示唆を頂きました。



「教育課程と体験活動の関連性」

大津市立葛川少年自然の家 所長 澤田 英弥氏

- ・施設の特色ある活動の紹介
- ・子どもの現状と課題（小学校）
- ・国の動向 中央教育審議会答申 教育再生会議
- ・学校教育法における根拠
- ・近畿における長期宿泊体験活動の状況
- ・学習指導要領における体験活動の位置づけ
- ・地域の教育力の低下
- ・長期集団宿泊体験活動 推進の理由
- ・長期集団宿泊体験活動を行う上での配慮事項
- ・滋賀県の動向 大津市の動向
- ・葛川少年自然の家の概要と運営方針
- ・教育課程での位置づけ
- ・教科における小学校の現状と課題
- ・小学校における体験活動の位置づけ
- ・主催研修事業における事例発表
- ・「大津市立葛川少年自然の家」の成果
- ・自然体験活動がもたらす教育的効果など

について、映像を示しながらご講義いただきました。人と自然との関わりの中で子どもたちが成長していく姿に感銘を受け、改めて自然体験活動の重要性について認識することができました。